

教科用図書調査報告書

甲府市教科用図書採択審議委員会

1 種 目 道徳

2 報告概要

教科書名 出版社名	特 徴
<p>新しい道徳 東京書籍</p>	<p>(1)生徒が人間としての生き方について考えを深める学習を行えるように工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ACTION!」では、役割演技や体験的学習を取り入れ、読み物教材と併せて活用することでねらいに迫ることができる。 ・「PLUS」の内容として、教材で学習した内容を広げるためのコラムがある。 ・「いじめ」や「いのち」のテーマに対して3つの教材を組み合わせ、ユニットを作り、多面的・多角的に考えられるよう工夫している。 ・各学年の巻頭に「道徳の授業はこんな時間に」があり、道徳の授業でどのようなことを考えていくのかというイメージがもてるようになっている。 ・各教材に「考えよう」「自分を見つめよう」の項目があり、他者との考えを協働的に比較するだけでなく、自己省察を行いやすい教材となっている。 ・各教材に「つぶやき」の欄が設定されており、生徒個人の考えを書き込むことで教材と向き合いながら学習を進めることができる工夫がされている。 ・各教材の冒頭にテーマが提示され、それを深めるための材料として教材文や漫画を読み、最後に提示された問いを通して考えるという構成になっている。また、しっかり考えさせ、話し合いの時間を十分確保するために、設問が2問に絞られている。 ・巻末に「自分の学びをふり返ろう」があり、学期単位など長いスパンで道徳の授業の学びを記録することができる。 ・巻末に「心情円」やホワイトボード用紙が用意されており、微妙な心情や思考の変化を可視化したり、話し合い活動等で活用したりできる。 ・問題解決的な学習のためのページを設定している。写真やイラストで問題意識を持たせ、設問も分かりやすく示し、話し合いをしやすくしている。 <p>(2)生徒の実態や地域の実態に応じられるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「差別や偏見のない公正・公平な態度」の学習を通して、いじめ問題について多面的・多角的に考えることができる内容となっている。 ・各学年「郷土のことを考える」がテーマとなる教材が用いられており、他の都道府県の伝統などに触れながら、自分の郷土について考える機会が設けられている。 ・今日的な課題「キャリア教育」「福祉」「自然・環境」「人権・いじめ」「健康・安全・防災」「国際理解」など様々なテーマを設けている。 ・情報モラルや東京オリンピック・パラリンピックなど、現代的なテーマや課題に関わる教材が設定されている。 ・生徒の実生活にも直結するような SNS のトラブルなど、ネットモラルやリテラシーについて考えられる教材がある。 ・付録に「郷土のことを考える」のページがあり、様々な都道府県に

	<p>関わりの深い人物や伝統・文化、技術や産業に触れることができる。3年では「地雷除去」に携わった山梨県の人物を取り上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付録の中に小学校で学んだ「橋の上のおおかみ」が掲載されており、中学生で改めて読むことで道徳的価値へのより深い学びを促している。 <p>(3)「主として自分自身に関すること」「主として人との関わりに関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」の視点に含まれる全ての項目が、適切に構成・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」と「いのち」に関する教材については、目次で強調して表示されており、教材も複数配置され、3学年に系統的に配置されている。 ・1つの内容項目を3学年で系統的に配置し、学年を追ってより深く考えることができる。 ・全ての内容項目について、複数配置している。特に「集団や社会との関わり」についての教材が多い。 <p>(4)表記や表現、写真や挿絵等が適切であり、教材の内容を把握して道徳的価値の理解を図るよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つぶやき欄」に罫線があり、自由に考えたり思ったことをメモできるようにになっている。話し合いの材料として活用できる。 ・AB版で、読みやすく、様々な視覚情報を利用しやすい。 ・教材に合ったイラストや写真が効果的に使われている。 ・興味・関心を高め、学びを深められるよう、[D]や[社][家][理]等教科のマークが示されたページがあり、QRコードやアドレスから教材と関連する映像や、関連する他教科の教科書紙面を見ることができるようになっている。 ・色とデザインの違いでマークの判別ができるように配慮し、矢印なども区別のつきやすい色にしたり、背景の色からも際立つようにしている。 ・教科書が軽い。 ・生徒の気持ちを可視化し、考えの整理を助ける教具が付いていたり、議論の時に活用できる話し合いの手法を紹介していたりと、考え議論する授業の実現に向けての工夫がいろいろ見られる。 ・設問や「ACTION!」における吹き出しなどは、文節の区切りで改行して読みやすくなっている。
<p>とびだそう 未来へ 教育出版</p>	<p>(1)生徒が人間としての生き方について考えを深める学習を行えるように工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめや差別のない社会について深く考える教材」には目次の所にマーキングされており、多角的・多面的な視点から「いじめ問題」について考えていける工夫がされている。 ・「やってみよう」のページがあり、実際の活動を通して道徳的な価値を考えて行く学習課題が設定されている。自分の考えを形成し、そこから周囲との対話という流れがスムーズに行われやすくなっている。 ・いじめや差別について考える教材を体系的に配置している。複数組み合わせ合わせたユニットになっており、一時間目ではいじめについて自他の権利を守るなど間接的な教材、二時間目はいじめを直接的に扱った教材が設けられている。 ・各学年の巻頭に「道徳科で学びを深めるために」「この教科書で学んでいくテーマ」があり、道徳の授業の学び方やどのようなテーマを学んでいくのかという見通しをもつことができる。

- ・各教材に「学びの道しるべ」があり、教材でどのようなことを考えていくのかということを生徒が意識しながら教材を読むことができる。また、教師もどのような発問をしていながら道徳的価値について考えてさせていけば良いかという指針となる。
 - ・各教材の冒頭に設けられた文章が、実際の授業の導入において、生徒に興味・関心をもたせながら学習のねらいを明確にし、教材内容に入っていけるものになっている。
 - ・巻末に「道徳の学びを記録しよう」「道徳の学びを振り返ろう」があり、学期単位など長いスパンで道徳の授業の学びを記録することができる。
 - ・主題名の下に、生徒が興味を持ったり、教材で考えたいくなるフレーズがある。そこから道徳的な価値について迫りやすいものとなっている。
 - ・全ての学年において、「問題解決的な学習を取り入れた教材」が複数取り上げられている。
 - ・内容を把握しやすい短めのものや絵本を使ったもの、漫画や歌詞、新聞などを教材として使っており、話し合いに参加し、考えられる工夫がされている。
 - ・身近な題材や日常生活に関わる題材が多く、自分自身にも関わることとしてとらえ、多面的・多角的に考えられるようになっている。
- (2)生徒の実態や地域の実態に応じられるよう工夫されているか。**
- ・「いじめや差別のない社会について深く考える教材」が数多く配置されており、重点化されている。
 - ・「友情、信頼」に関する学習を行う際、小学校では創作読み物を扱うことが多いが、中学校ではノンフィクション教材や異性についての理解を深める教材など発達段階に応じた内容となっている。
 - ・1年では「富士山を守っていくために」という教材で山梨になじみのある内容を扱っている。
 - ・同じ登場人物や同じ学校が3年間通して出てくるため、興味関心を持って学習に向き合えたとともに登場人物の成長と併せて考えを深めることができる。
 - ・資料に「都道府県にゆかりのある人物と、その言葉」が掲載されており、様々な都道府県に関わりのある人物が紹介されている。
 - ・生徒の実生活にも関わる現代的な課題が教材や道徳的価値と関連させながら系統的に扱われている。
 - ・補充教材が各学年5つ掲載されており、生徒の実態に応じることのできる幅広さがある。
 - ・郷土の話題を広く取り上げ、自分事として考えさせる教材がある。
 - ・全ての学年において、巻末の「これからを生きる皆さんへ」に保護者記入欄がある。
- (3)「主として自分自身に関すること」「主として人との関わりに関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」の視点に含まれる全ての項目が、適切に構成・配列されているか。**
- ・1年生では「自分自身に関すること」を多く扱い、学年が上がるにしたがって「人との関わり」、「集団や社会との関わり」の教材に重きをおいている。「生命や自然、崇高なものとの関わり」は、全学年を通して重視している。
 - ・すべての学年において「生命の尊さ」についての比重が高い。
 - ・生徒の生活実態に即した教材を三年間連動させている。主人公が同じとか同じ中学校を舞台にしているなど。

	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別のページがある。キャリア教育，社会参画のテーマにどの学年も比重を置いている。情報モラルについては各学年2つずつ。 ・役割演技や活動のページが随所に盛り込まれ，生徒が自分ごととして教材にあたりやすいよう工夫されている。 <p>(4)表記や表現，写真や挿絵等が適切であり，教材の内容を把握して道徳的価値の理解を図るよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年の教材10までのフォントが大きくなっていて，中学1年生への配慮がされている。 ・教科書での学びをさらに充実させ，知識を深めたり視野を広げたりできるよう，[まなびリンク]が用意され，ウェブサイト情報が活用できる。 ・文章構成がつかみやすい位置で改行しているため内容理解がしやすい。また，教材の始まりは常に右ページからにしており，区切りがわかりやすく，見開きで見渡せる。 ・マークは色と絵柄で区別できるようにしていたり，見分けやすい配色にするなどカラーユニバーサルデザインに配慮している。
<p>きみが いちばん ひかるとき</p> <p>光村図書</p>	<p>(1)生徒が人間としての生き方について考えを深める学習を行えるように工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳の授業を始めよう！」から学習が始まり，何を学ぶのかという見通しを生徒自身もつことができる。 ・「見方を変えて」が設定されているページがあり，多面的・多角的に考えられるようになっている。 ・「いじめ」「情報モラル」問題をはじめ，生徒に考えてほしい「現代的な課題」について，教材と結び付けて考えられるようなページが用意されている。 ・各学年にシーズンが設定されるとともに，成長に寄り添った年間構成がなされ，時期や学校生活に応じた価値項目の学習を行うことができる。 ・巻末にある「学びの記録」が授業ごとの振り返りとシーズンでのまとめとなっており，それぞれの学習で考えたことや学んだことが整理しやすくなっていて，自分自身の成長に気づかせるための工夫がある。 ・生徒の日常生活で起こりうる問題について，解決するためにはどうしたらよいかという問題解決学習を取り入れた教材や「役割演技」の具体的な手順と発言例を提案している教材もあり，多面的・多角的な学びを促すことができる。 ・読み物教材と活動的な学習を組み合わせた複数時間教材が配置されている。1時間目に教材を通して道徳的価値を学び，2時間目（「深めたいむ」）に，その道徳的価値を深めるための話し合い活動などを設定している。 ・「つなげよう」では前に学んだ教材と比較をして考えを深めることができる。 ・「人と人との関係づくり」「共生」「環境」「国際理解」の現代的な課題についてはコラムを設定し，直前の教材の内容と関連性を持たせている。 ・1年で「日本の郷土玩具」2年「日本各地の世界遺産」3年「日本の先駆者たち」と系統性をもって，地域から世界へ目を向けることができるような資料が配置されている。 ・各教材の終わりに，道徳的価値にせまる発問が設定されている。また，見方を変えた問いや学んだことを他教科や日常生活につなげる

ための呼びかけを記載している。

(2)生徒の実態や地域の実態に応じられるよう工夫されているか。

- ・「情報モラル」や「いじめ問題」については、複数時間教材を設定し、手厚く扱っている。
- ・「生命の尊さ」「多様性の中で」「自然環境を考える」「伝統を引き継ぐ」「未来を築く」と、幅広いテーマについて中学生の心に響く教材を新設している。
- ・巻末の「この教科書が目ざした1年生の姿」で現代的な課題と教材の関わりが明記されており、生徒だけでなく保護者にとってもどのような学習を行っているかが理解しやすい。
- ・各学年の付録に様々なジャンルで活躍している著名人からのメッセージが掲載されている。
- ・巻末ではポートフォリオ形式で毎時間の学習の記録ができるようになっており、考えや感じたことを振り返ったり変化を感じたりできるようになっている。
- ・付録の中に小学校で学んだ「橋の上のおおかみ」が掲載されており、中学生で改めて読むことで道徳的価値へのより深い学びを促している。

(3)「主として自分自身に関すること」「主として人との関わりに関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」の視点に含まれる全ての項目が、適切に構成・配列されているか。

- ・「現代的な課題」について、様々な教材で取り扱っており、中でも「環境」「国際理解」「共生」については、より重視されており、教材の後にコラムがついている。
- ・1年ではBの観点、2年ではAの観点に比重が置かれており、3年間を通して考えられた観点比重になっている。
- ・最終ページには教員や保護者に向けた各学年における目指す姿が書かれていて、4つの観点を学習しながら生徒がどのように学びを深めていくのかをイメージすることができる。
- ・22のすべての内容項目に関する教材が、本書で設定した3つのシーズンのテーマ（シーズン1「自ら考えて」、シーズン2「広い視野で」、シーズン3「共に学び合いながら」）に合った順で配置されている。
- ・各学年で「生命の尊さ」についての教材が3時間ずつ設定されていて、3年間で9回の扱いがある。
- ・学年の最後に「道徳の学びを振り返ろう」のページがあり、自分の考えの変化やこれからの生き方を考えられる場面を設定している。
- ・付録にも教材が用意されていて、「深めたいむ」や他の教材とそれらを差し替えることもでき、生徒の実態に応じて柔軟な教材選びができる。
- ・読み物教材と、活動的な学習（「深めたいむ」）を組み合わせた複数時間教材が各学年に設定されている。

(4)表記や表現、写真や挿絵等が適切であり、教材の内容を把握して道徳的価値の理解を図るよう工夫されているか。

- ・巻末に「この教科書が目ざした生徒の姿」や、現代的な課題等との関わりや他教科・領域との関わりが載っており、この教科書が目ざすところを保護者にも発信し、学校・家庭・地域の連携が図れるようになっている。
- ・QRコードでインターネットコンテンツにリンクすると写真などの参考資料や参考動画があったり、朗読してくれたり、関連ウェブサイ

	<p>トを紹介したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイナミックな写真や漫画，グラフやポスター，新聞などの資料が掲載されている。 ・マークなどは色と形を組み合わせることでより区別しやすくするなど，カラーユニバーサルデザインへ配慮している。
<p>明日を生きる 日本文教出版</p>	<p>(1)生徒が人間としての生き方について考えを深める学習を行えるように工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「①気づく」「②考え議論する，深める」「③見つめる，生かす」の3ステップで，1時間の学習の流れを可視化している。先生や仲間と話し合いながら，対話的で深い学びができるように工夫されている。 ・「問題解決的な学習」や「体験的な学習」に適した教材が複数設定されており，授業展開のイメージがしやすいように「学習の進め方」が示されるなど工夫されている。 ・「私の生き方」や参考として学習内容の理解を助けるコラムが設けられており，理解を深めることができる。 ・別冊「道徳ノート」で，自分の心の成長を記録することができる。また，記入欄を左右に並べているので，自分と友達の考えを対比して深めたり議論したりしやすい。 ・「見つめる，生かす」では，授業で学んだことを実生活に生かすための発問が記載されている。 ・「プラットフォーム」や「参考」「私の生き方」など複数のコラムのページが設定されており，学習内容を日常生活や他教科等につなげたり，学習の理解を助けたり，ヒントを与えたりしている。 ・ユニット「いじめと向き合う」「よりよい社会と私たち」が，複数の教材・コラムで構成されていて，一定期間に集中的に学び，より深く，多面的・多角的に「いじめ」や「社会への参画」等について考えられるように工夫されている。 ・「考えてみよう」「自分に+1」があり，生徒が個々で考えたことを他者と協働的に対話しやすい学習内容となっている。 <p>(2)生徒の実態や地域の実態に応じられるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳科」で学ぶことが保護者にもわかるよう，巻頭のオリエンテーションのページでわかりやすく示している。 ・「道徳ノート」では，友だちの意見と比べて考えることができるように，左側には自分の意見，右側には友だちの意見の記入欄を設置し，それぞれの意見を対比させやすくしている。 ・人権尊重の精神から登場人物の性別や，人種，身体的な特徴などに，偏りがないように配慮されている。 ・先人たちや現代を生きる人たちの生き方を積極的に取り上げているように思う。成功談だけでなくそれぞれの苦悩や努力から誇りある生き方について知り，考えを深めることができる。 ・地球の未来や現代的な課題である「ESD」「SDG s」，「環境教育」「防災・安全」「伝統文化」「国際理解教育」「オリンピック」など幅広いテーマを取り上げている。 ・身近な生活場面や活躍中のスポーツ選手の教材，漫画形式やグラフを扱う教材など，多岐にわたる教材で生徒の学習意欲を喚起できるよう工夫されている。 <p>(3)「主として自分自身に関すること」「主として人との関わりに関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」の視点に含まれる全ての項目が，適切に構成・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～7月には，中学校生活に期待が持てるような教材や人間関係

	<p>に関わる教材，8月～12月には，平和学習や充実した集団生活につながるような教材，1月～3月には1年間のまとめや次学年につながる教材など，学校生活との関わりが意識されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題については，いじめが発生しやすい時期や学年にあわせてユニットを配置するなど，工夫がされている。 ・国際理解や伝統文化における題材が多く，グローバル・ローカルの両方に十分対応している。 ・Cの視点が各学年で15～16時間設定されていて，比重が高い。 ・各項目が概ね学年ごとに同じ回数の扱いである。「生命の尊さ」「友情・信頼」はそれぞれ9回，8回の扱い。テーマ別のページでは，「いじめと向き合う」「よりよい社会と私達」が多く，重点が置かれている。 ・キャリア教育に配慮し，小，中，高等学校などで校種間連携できるように，教材の選定や配列に工夫がされている。（3年生では，参政権に関する教材や高等学校の「公共」への接続を意識したコラムを掲載している。） <p>(4)表記や表現，写真や挿絵等が適切であり，教材の内容を把握して道徳的価値の理解を図るよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう，コンピュータのマークのついた教材には，授業の導入や展開で効果的に活用できる参考動画や関連画像などがデジタル教材として準備されている。 ・4つの視点ごとにマークと色が用いられ，教材と内容項目との関連が分かりやすく，登場人物紹介もあり，生徒が理解しやすいよう工夫されている。 ・色や形の両方から見分けられるわかりやすいアイコンを使ったり，中学校で学習する漢字にフリガナを付けていたりする。 ・教材の始まりを右ページからにしており，区切りが分かりやすく，内容が見開きで見渡せる。 ・文章の読解が難しい生徒も理解しやすいよう漫画形式の教材や写真，グラフや図が多い。
<p>明日への扉 学研教育 みらい</p>	<p>(1)生徒が人間としての生き方について考えを深める学習を行えるように工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」に関する学習が重点化されていて，年間を通し，学習内容として位置づけられている。（1年6，2年7，3年5） ・巻頭に考えを深める4つのステップが具体的に示されていることで，他者との協働や自己観察を行う学び方を理解できる。 ・「クローズアップ」や「クローズアッププラス」のページでは，多面的・多角的に考えられる関連情報や資料があり，考え方や生き方の選択肢が増やせるようになっている。 ・「クローズアッププラス」には，「アンガーマネジメント」「自己肯定感」「メンタルトレーニング」に関わる活動が設定されている。 ・「情報モラル」や「防災教育」「福祉教育」などの教材がいくつも盛り込まれ，生徒が身近な問題として考えることができる展開となっている。 ・「生命尊重」や「いじめ防止」のテーマにも重点が置かれ，自分自身と向き合い自己を見つめられる教材や，他者と共によりよく生きるために多様な内容で多面的に考えられるような教材が取り上げられている。 ・「ユニット学習」が設定されており，複数の教材を連続して学ぶこと

	<p>で、テーマについて多面的・多角的に考えていくことができるとともに、自己内対話を生み出しやすい教材配置となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの視点のマーク表示、主題名の扱いへの配慮、興味を示すためのキーフレーズの提示、考えるきっかけとなる質問の提示、メモ欄の設定、「深めよう」のページの設定、多様な意見の提示など細かな工夫がなされていて、自然な流れで生徒が自ら主体的に課題を発見し、考えを深め、自己を見つめながら学習し、成長していける教科書になっている。 ・各教材の終わりにある「考えよう」で、生徒が道徳的価値について主体的に考えられるようなヒントとなる発問が設定されている。 ・巻頭に「道徳で学ぶこと・考えること」、「よりよく生きる22の鍵」や「様々なテーマで学ぼう」などが設定されており、道徳の学習に向けての準備を十分にいき、道徳教育へ関心を高めるきっかけづくりとなっている。 ・クローズアップや深めようには、ソーシャルスキルトレーニングが含まれている。 ・巻頭や巻末に自分の思いや考えを記入できるページが設定されており、自分自身の成長に気づくための工夫がある。 ・巻末の「学びの記録」は学期ごとに行う形式となっており、生徒がどのような学習成果を得ることができたのかという点を長いスパンで振り返ることができる。 ・教材の中で、敢えて異なる意見を提示している教材があり、多様な意見に触れながら自分の考えを深めることができる。 ・携帯電話（スマートフォン）やインターネットの普及など、急速な情報社会化とともにネットいじめが急増していることもあり、情報モラル教育については、発達段階に合わせて系統的に各学年で2教材ずつが取り入れられている。 ・各教材の「深めよう」では、思考を可視化し、ロールプレイを用いて他者と協働的に考えることができる工夫がある。 <p>(2)生徒の実態や地域の実態に応じられるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「より良く生きるための22の鍵」というページでは22項目別の目次があり、項目をわかりやすい言葉で説明している。また自分たちが学んでいくことを見通すことができる。 ・「受け継ぎ伝える伝統文化」では2年生で金閣寺に関する学習内容となっており、次年度の修学旅行を見据えた教科横断的な学習が期待できる。 ・「クローズアップ」や「クローズアッププラス」は、それぞれの教材で学習した内容や価値項目について、生徒の考えを更新したり深めたりできるような資料となっている。 ・「情報モラル」、「いのち」「いじめ防止」「防災」「SDGs」など、現代的な課題に関わる教材が複数取り上げられている。 ・主題名の下にあるキーフレーズは、生徒の興味関心を高める効果があると考えられる。 <p>(3)「主として自分自身に関すること」「主として人との関わりに関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」の視点に含まれる全ての項目が、適切に構成・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生命の尊さ」の教材が各学年で3本ずつ取り入れられている。また、他の内容項目とともに「いのちの大切さ」を考える教材も複数あり、命について多面的・多角的に考える授業が展開できるように工夫されている。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・特設ページ「クローズアップ プラス」で、「生命の尊重」「いじめ防止」につながる3つのテーマを扱っている。 ・様々な分野で活躍する、今を生きる人たち、先人達の教材が多く用いられ、様々な生き方からの学びができるように工夫されている。 ・3年では「思いやり・感謝」や「国際理解・国際貢献」の項目が増えるなど、学年に合わせて項目を重点化して配置している。 ・A,Cの項目で「将来の私を考える」というキャリア視点のテーマが多い。 ・生徒が興味を示すであろう人の言葉や題材がピックアップされている。 <p>(4)表記や表現, 写真や挿絵等が適切であり, 教材の内容を把握して道徳的価値の理解を図るよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びが深まるよう, 写真や図版を大きく効果的に用いるため, AB判のワイドな教科書になっている。表紙を開いた最初のページでは, 見開きいっぱい広がった写真に心を耕す言葉が添えられている。 ・巻頭や巻末に自分の思いや考えを記入できるページが設定されており, 自分自身の成長に気づくための工夫がある。 ・教科書の巻頭に道徳の授業への向き合い方「考えを深める四つのステップ」が明示され, 教材の特設ページ「深めよう」には各ステップごとに具体的な例が示されており, 授業をスムーズに展開できるよう工夫されている。 ・QRコードでインターネットコンテンツにリンクするようになっている。 ・教材の始まりを右ページからにしており, 区切りが分かりやすく, 内容が見開きで見渡せる。 ・写真やイラスト, 見やすい図表が多い。またカラーユニバーサルデザインにも配慮していて, 読むことやイメージすることが苦手な生徒にも読みたくなる, 読みやすくなる工夫がされている。 ・メモ欄が設けられ, 罫線もあり, 思いや気づきを書き留められる。 ・欄外に語句や登場人物等の説明が充実している。
<p>自分を 見つめる</p> <p>廣濟堂 あかつき</p>	<p>(1)生徒が人間としての生き方について考えを深める学習を行えるように工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生命」「いじめ」「情報」に関する学習内容がピックアップされており, 巻末の「内容一覧」に掲載されている。 ・各教材の終わりに「考える・話し合う」が設定されており, 「学習の手がかり」や「考えを広げる・深める」が示され, 問題解決的な学習を促す問いになっている。 ・巻頭の「道徳の時間とは」に, 各学年に応じた道徳科の導入メッセージがあり, その後に道徳科でどのように学習をしていけば良いか明記されている。 ・巻末「内容一覧」には, 道徳科で学ぶ項目に加えて, 他教科・領域・現代的な課題等との関わりが明記されており, 教科横断的な学習や社会との繋がりを意識しやすい。 ・現代的な課題や他の教育活動との関連が図れるような教材が選定されていて, 生徒が教材の中の「道徳上の問題」を明確に捉え, 主体的に取り組めるように工夫されている。 ・問いが「決まりきった答えが出ない」よう工夫され, 対話的な学習の充実が図れるようになっている。 ・別冊「中学生の道徳ノート」は, 自己評価を含めた学習の振り返りができるよう工夫されており, 生き方についての考えを深めること

	<p>ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の他に道徳ノートがついていて、教材と合わせて、道徳的価値への考えをより深く広げることができる。 <p>(2)生徒の実態や地域の実態に応じられるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳ノート」には学習内容を補充できる資料や郷土に目を向けるきっかけとなるような資料が掲載されている。 ・「道徳ノート」の「学習の記録」はワークシート形式ではなく、生徒自身の内から出てくるものを記述しやすくなっている。 ・インターネットを使った学習ができる教材（QRコード）が複数設定されている。 ・情報モラルについての教材が複数設定されている。 <p>(3)「主として自分自身に関すること」「主として人との関わりに関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」の視点に含まれる全ての項目が、適切に構成・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止と特に関連が深い項目について、教材を増やし、指導機会を多く持つことができるようにしている。 ・各学年で扱う内容項目の数が同じであり、特にA（自主・自立）、B（思いやり・感謝）、D（生命の尊さ）、（よりよく生きる喜び）においては3時間ずつ設定されていて、3年間で9回扱う。 ・巻末に掲載された教材一覧では、内容項目を生徒の理解しやすい文章にしたものが掲載されている。 ・生徒の生活実態に即した教材を三年間連動させている。主人公が同じなど。 ・別冊「中学生の道徳ノート」で学習の記録をまとめておくことができるため、自分の感想や考えをいつでも振り返ることができたり、考えの変化等を実感することができたりする。 <p>(4)表記や表現、写真や挿絵等が適切であり、教材の内容を把握して道徳的価値の理解を図るよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A B判を採用し、イラスト配置を工夫することで、圧迫感のないゆとりのある紙面構成になっている。 ・ICTを活用することで、教材に関連した資料等の調べ学習をはじめとした発展的な学習を促し、情報活用能力の育成を図ることができるようになっている。 ・小学校からの系統性を考慮して、一年生は本文の文字を大きくしている。配当漢字及び未習の漢字については、すべてに振り仮名をふってある。 ・色覚の違いにより学習に支障をきたすことのないよう、ユニバーサルデザインを使用している。
<p>生き方から学ぶ</p> <p>日本教科書</p>	<p>(1)生徒が人間としての生き方について考えを深める学習を行えるように工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章でなく絵画や図表のようなテキストを読み、そこから考える教材があり、個々の捉え方の違いや対話を生み出しやすい教材となっている。 ・各教材に「考え、話し合ってみよう そして深めよう」があり、学習内容について個人で考え、その考えを一般化し生活にいかしやすい課題となっている。 ・巻頭に「道徳って何を学ぶの？」が設定されており、これから始まる道徳教育に対しての意欲向上へつながる工夫がされている。 ・巻末の振り返りは細かな内容が設定されており、生徒がどのような学習成果を得ることができたのかを可視化できるものとなっている。

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生という社会や人間関係が飛躍的に広く複雑になっていく時期に、一人一人の生徒が、道徳的課題を家族・学校・地域社会の一員として捉え、向き合い、考えていけるような教材を選定している。 <p>(2)生徒の実態や地域の実態に応じられるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材間にあるコラムや資料は、学習した内容を補充するだけでなく、生徒個々の考えの変容や更新につなげることが期待できる。 ・2年ではLGBTQなど現代的な話題がある。 ・現代的な課題である情報モラルに関わる教材が設定されている。また、「人権」「人間関係」「福祉」「環境」「遵法」「生命の連続性」「社会参画」など、現代的な課題に関わる教材が複数取り上げられている。 <p>(3)「主として自分自身に関すること」「主として人との関わりに関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」の視点に含まれる全ての項目が、適切に構成・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「友情・信頼」の内容項目が9時間あり、最も重点を置いている。 ・教材は、内容項目ごとにまとめて配置されている。 ・Cの視点が各学年で15～17時間設定されていて、比較的に比重が高い。 ・教材は、学習指導要領の内容項目順に配列されている。巻末に学習指導要領対応表が掲載されている。 <p>(4)表記や表現、写真や挿絵等が適切であり、教材の内容を把握して道徳的価値の理解を図るよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材に出てくる場面の写真を多く配置している。挿絵も教材ごとに大きさを工夫し配置されている。 ・A～Dの順で掲載されている。 ・巻末に1年間の学習を振り返るページがあり、その中に生活との関連を記述する欄を設けている。 ・教材の題名の上には、内容項目に対応した番号が記されている。 ・難しい言葉について下段に説明がある。
--	---